

台風15号に伴う日吉ダム^{ひよし}の防災操作について

～桂川^{ほづばし}（保津橋地点）のはん濫危険水位を回避～

台風15号の北上に伴い、淀川水系桂川の日吉ダム^{ひよし}（南丹市日吉町^{なんたんしひよしちょう}）上流域では、降り始めの9月19日10時から9月22日8時までの総雨量が214mmに達し、ダムへの最大流入量は毎秒約508m³を記録しました。

この出水に対し、日吉ダムでは国土交通省淀川ダム統合管理事務所の指示による防災操作を実施し、ダム下流の桂川^{ほづばし}（保津橋地点）の水位がはん濫危険水位を上回ることを回避しました。

ダムがなかった場合には、保津橋地点における河川水位ははん濫危険水位（4.50m）を約8時間超えていたものと想定されます。

- ※ [防災操作とは] 大雨などの際、流れ込む水の一部をダムに一時的に溜め込むことでダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させることです。
- ※ [保津橋地点とは] 亀岡市保津町下中島地先（保津川下り乗船場付近）です。
- ※ 今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成23年9月22日



独立行政法人 水資源機構^{みずしげんきこう} 日吉ダム管理所^{ひよし}

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 淀川ダム統合管理事務所

副所長 橋本 和夫（はしもとかずお）

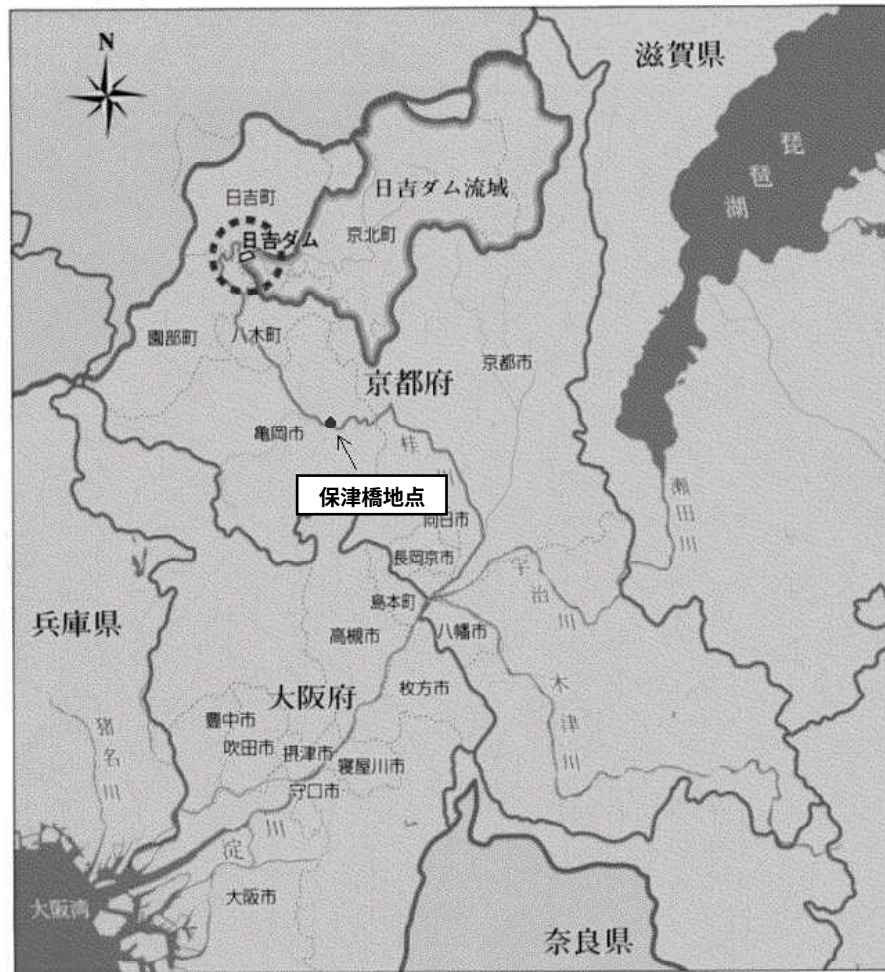
電話：072-856-3131（代表）

独立行政法人水資源機構 日吉ダム管理所

所長代理 後藤 孝（ごとうたかし）

電話：0771-72-0171（代表）

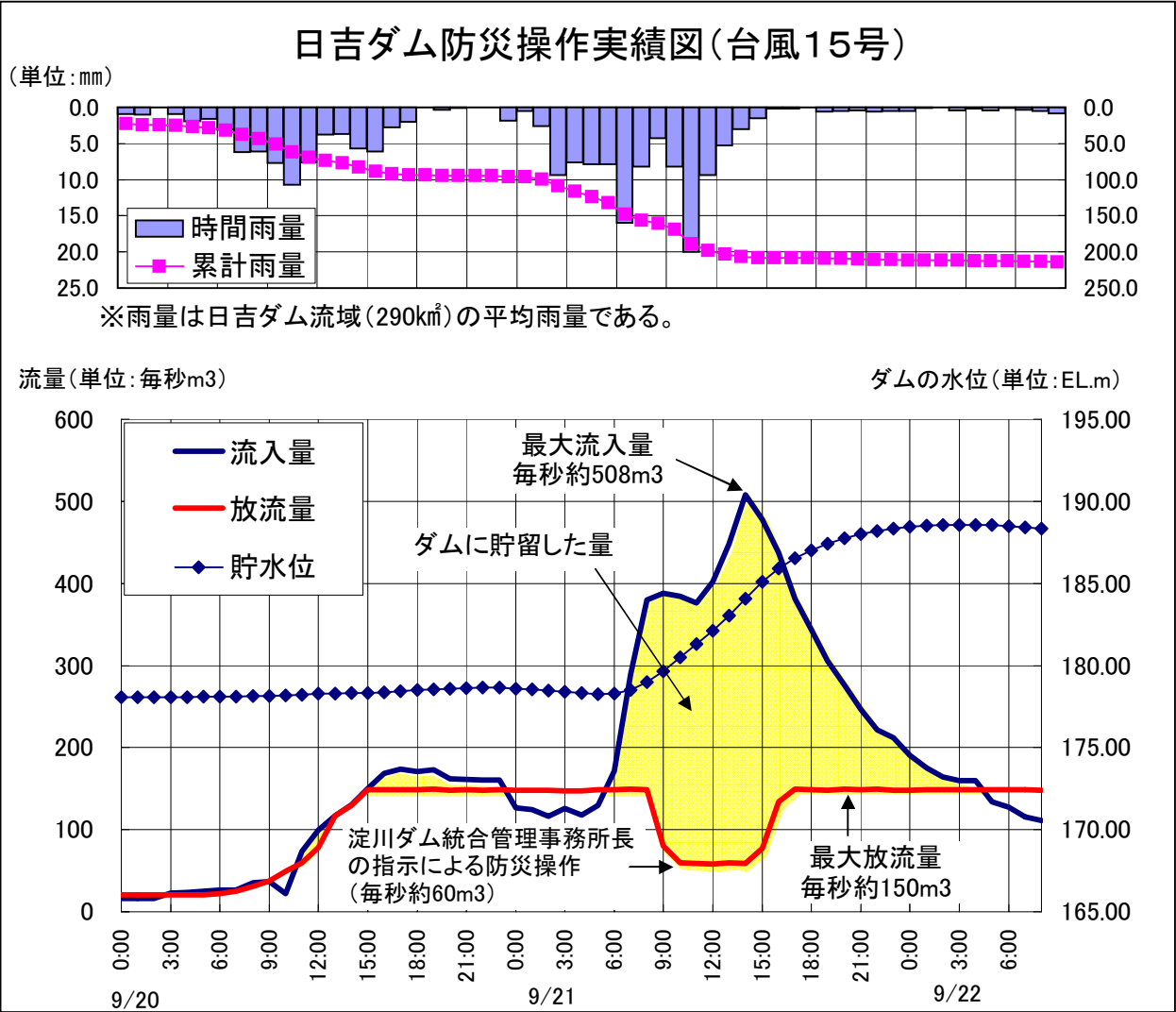
■ 淀川水系と日吉ダム流域



日吉ダムでは、今後も治水・利水の両面でダム管理に万全を期し、
ダムの効果発現に努めて参ります。

台風15号の降雨に伴う日吉ダム防災操作について

・今年5回目の防災操作



平成23年洪水の記録

区分	流域平均総雨量 (mm)	ダムへの最大流入量 (毎秒m ³)	ダムからの最大放流量 (毎秒m ³)
平成23年5月 前線	165	390	150
平成23年5月 台風2号	178	355	150
平成23年7月 台風6号	202	320	150
平成23年9月 台風12号	221	400	150
平成23年9月 台風15号	214	508	150

※平成23年9月台風15号による流域平均総雨量は、平成23年9月19日10時～平成23年9月22日8時までの累計です。
※平成23年9月台風15号によるダムへの最大流入量は、日吉ダム管理開始以降4番目に大きい流入量を記録しました。

管理開始以降の洪水記録(流入量の最大)

区分	流域平均総雨量 (mm)	ダムへの最大流入量 (毎秒m ³)	ダムからの最大放流量 (毎秒m ³)
平成16年10月 台風23号	238	856	150

日吉ダムが桂川下流の河川水位低減に効果を発揮！

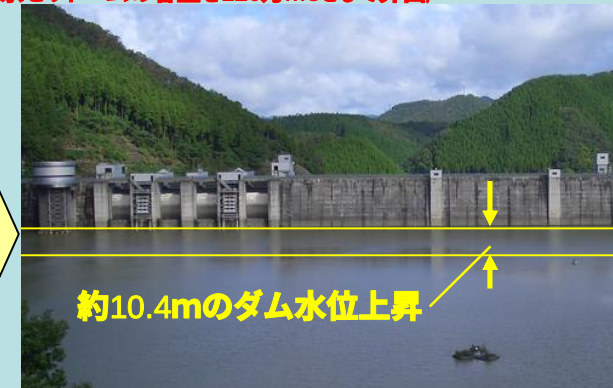
非常に強い台風15号と秋雨前線の影響により、9月20日より桂川の流量が増大し、本年5回目の防災操作を実施しました。今回の日吉ダム防災操作では、ダムに流れ込む水の量より少ない量を放流しました。放流量は、初め通常の防災操作（毎秒150m³）による放流を実施しましたが、下流河川の洪水ピークに合わせて、国土交通省淀川ダム統合管理事務所の指示により、さらに少ない放流量（毎秒60m³）に減量することによって、京セラドーム約13杯分に相当する水をダムに貯め込み、桂川（保津橋地点）の水位上昇を約59cm低く抑え、はん濫危険水位を上回ることを回避しました。また、保津橋地点より下流河川でも水位低減効果があったと考えられます。



京セラドーム※約13杯分に相当する水を日吉ダムにため込み、少ない量を放流することでダム下流の河川の水位上昇を抑えました。(※京セラドームの容量を120万m³として算出)



(貯水位EL.178.14m:平成23年9月20日9時)



(最高貯水位EL.188.57m:平成23年9月22日)

保津橋地点 (保津川下り乗船場付近) での水位低減効果

【日吉ダムの効果】

保津橋地点の河川最高水位を約59cm低減することにより、はん濫危険水位を上回ることを回避しました。

